

# 日本高気圧環境・潜水医学会雑誌

The Japanese Journal of Hyperbaric and Undersea Medicine

2014 Vol.49 Supplement

第49回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 予稿集



# 第49回 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 参加申込用紙

《ご記入後、総合受付へ提出してください。》

会 期 2014年11月7日(金)・8日(土)

会 場 鹿児島県医師会館

## 1. 学会参加費

↓ 該当欄にチェックを入れてください。

<input type="checkbox"/>	会員	10,000円
<input type="checkbox"/>	会員以外の医師・歯科医師	10,000円
<input type="checkbox"/>	会員以外の看護師・臨床工学技士	8,000円
<input type="checkbox"/>	一般参加者(潜水関係者を含む)	3,000円
<input type="checkbox"/>	研修医・学生	無料

※研修医・学生は、身分証明書を提示してください。

## 2. 全体懇親会参加費

11月7日(金) 18:30～20:00(予定)

鹿児島東急イン 2階 オリオン

<input type="checkbox"/>	参加します	3,000円
--------------------------	-------	--------

ご氏名

ご所属




## 第49回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 予稿集

### CONTENTS

---

ご挨拶	2
各種会議のお知らせ	3
関連行事のご案内	4
会場までのアクセス	5
会場案内図	6
参加者へのお知らせ	8
発表者へのお知らせ	9
プロシーディングの作成	10
座長・司会者へのお知らせ	11
打ち合わせ会のお知らせ	12
学会日程表 (第1日目)	14
学会日程表 (第2日目)	15
学会学術総会プログラム	i
招請講演・特別講演・教育講演・理事長講演・ランチョンセミナー・ シンポジウム・ワークショップ	1
一般演題	18

## 日本高気圧環境・潜水医学会歴代会長および開催地

回数		年度	会長名	開催地
第1回	*	1966年	橋本 義雄	東京
第2回	*	1967年	木本 誠二	名古屋
第3回		1968年	高木 忠信	東京
第4回		1969年	和田 寿郎	札幌
第5回		1970年	砂田 輝武	岡山
第6回		1971年	綿貫 喆	東京
第7回		1972年	恩地 裕	大阪
第8回		1973年	笹本 浩	東京
第9回		1974年	松田 源彦	東京
第10回		1975年	代田 明郎	東京
第11回		1976年	井口 潔	福岡
第12回		1977年	榊原 欣作	名古屋
第13回		1978年	藤田 達士	前橋
第14回		1979年	梨本 一郎	東京
第15回		1980年	古田 昭一	東京
第16回		1981年	杉本 侃	宝塚
第17回		1982年	岩 喬	金沢
第18回		1983年	古川 幸道	札幌
第19回		1984年	野口 照義	千葉
第20回		1985年	湯佐 祚子	那覇
第21回		1986年	八木 博司	福岡
第22回		1987年	伊坪 喜八郎	東京
第23回		1988年	金谷 春之	盛岡
第24回		1989年	中山 英明	米子
第25回		1990年	太田 保世	大磯
第26回		1991年	恩田 昌彦	東京
第27回		1992年	樋口 道雄	千葉
第28回		1993年	大岩 弘典	横浜
第29回		1994年	川嶌 真人	中津
第30回		1995年	高橋 英世	名古屋
第31回		1996年	木谷 泰治	前橋
第32回		1997年	眞野 喜洋	東京
第33回		1998年	中田 瑛浩	山形
第34回		1999年	毛利 元彦	横浜
第35回		2000年	森山 雄吉	東京
第36回		2001年	加来 信夫	福岡
第37回		2002年	杉山 弘行	東京
第38回		2003年	鎌田 桂	盛岡
第39回		2004年	池田 知純	東京
第40回		2005年	古山 信明	千葉
第41回		2006年	井上 治	沖縄
第42回		2007年	山本 五十年	横浜
第43回		2008年	郷 一知	旭川
第44回		2009年	徳永 昭	東京
第45回		2010年	氏家 良人	岡山
第46回		2011年	柳下 和慶	東京
第47回		2012年	森本 裕二	札幌
第48回		2013年	鈴木 信哉	東京
第49回		2014年	有村 敏明	鹿児島

\*第1回・第2回は高気圧環境医学研究会として開催

# 第49回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会

## 重症疾患に対する高気圧酸素療法の役割

会長 有村 敏明 (鹿児島市医師会病院 副院長)

会期 2014年11月7日(金)・8日(土)

会場 鹿児島県医師会館

学術総会HP

<http://www.city.kagoshima.med.or.jp/kasiihp/jshum49/>

第49回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会事務局

〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番1号

鹿児島市医師会病院 事務部 総務課

TEL:099-254-1125 FAX:099-259-1694

E-mail:jshum49@city.kagoshima.med.or.jp

## ご挨拶

第49回日本高気圧環境・潜水医学会 学術総会 会長  
鹿児島市医師会病院 副院長

有村 敏明

第49回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会を11月7, 8日の両日鹿児島の地で開催する事となりました鹿児島市医師会病院の有村です。伝統ある本学会のお世話をさせて頂くことは私にとって大変光栄な事であると同時に、多大な責任の重さを痛感しております。

今回は「重症疾患に対する高気圧酸素療法の役割」というテーマを掲げさせて頂きました。私は臨床麻酔・救急医学が専門で、侵襲制御学の領域で仕事をさせて頂いております。この領域での高気圧酸素療法は重要な治療の一角を占めていることは紛れもない事実であります。例えば、血流不全、一酸化酸素中毒、減圧症などに対する高気圧酸素療法は、これらの疾患の治療の本幹をなすものと考えます。しかし、救急医療を先導する医療機関が最近高気圧酸素療法の分野から撤退する傾向がありますが、それは経営の面から不採算領域であると判断されている事が原因かと思えます。DPC病院の場合、入院患者では非救急の適応疾患では包括の中で算定されないため処置がコストとなってしまう、それが高気圧酸素療法の分野から撤退させる要因となっているようです。この点をふまえて、一つのシンポジウムと二つのワークショップを重症疾患の観点から行う事としました。

社会の変化に応じて疾患の変遷も起こっています。例えば、マリンスポーツ人口の増加に伴う減圧症患者の増加、またストレスも一因かと思われる突発性難聴、更に火災や自殺願望者による一酸化炭素中毒の増加などが挙げられます。更にコンパートメント症候群、重症急性膵炎などの重症疾患治療の選択肢に高気圧酸素療法は有用なものと考えられます。これらの疾患は基本的には高度救急救命センターで対応して頂く必要があります。コストパフォーマンスが悪いという理由で救急医療を先導する医療機関が撤退するのは大変矛盾した対応と思えてなりません。

その対策として我々は高気圧酸素療法の有効性、必要性を広く社会にアピールする必要があります。その方法として学会誌に研究、症例論文を掲載する事、多施設研究を行いそのデータを論文としてまとめること、それらの結果を厚生労働省保険局にエビデンスとして提出し、診療報酬に反映させることだと思います。勿論現在も学会執行部が行っていますが、会員全員で取り組むことが明るい将来が見える事では無いかと思えます。

今回の学会ではポスターセッションは設けず一般口演のみの方式を取らせて頂きました。ご容赦ください。特別講演はお二方に御願いしました。最初は鹿児島志学館大学教授の原口先生に鹿児島の歴史についてお話を頂くこととしました。また九州高気圧酸素療法の育ての親である八木先生にもお話し頂くこととなっております。さらに、今回はこの学会の将来の提言を代表理事にお話し頂くこととしました。その他招請講演、教育講演等を幾つか用意しております。

この時期の鹿児島は例年でありましてさわやかな秋晴れが続いている時期ですが、今年は大きな台風にも見舞われやっとなりに秋らしい気候となりました。この時期は桜島の噴煙も鹿児島市方面にはあまり流れてこないのですが、噴煙は相変わらずあげています。来鹿された皆様にはいい思い出となるでしょう。また鹿児島は美味しい食物が豊富です。黒豚、黒牛、黒薩摩鶏、黒糖焼酎などです。火山の地ですから温泉も豊富です。市内の銭湯はすべて温泉です。黒シリーズを食し、温泉に浸かり、学術総会で活気ある討論を期待したいと思います。会員の皆様の御来鹿を楽しみにしております。気をつけておいでください。





## 各種会議のお知らせ

### ■理事会・社員総会（評議員会）

通常理事会 11月6日（木）14:00～16:00

社員総会（評議員会） 11月6日（木）16:00～18:00

場 所：城山観光ホテル（鹿児島市新照院町41-1）4階カトレア・天平

城山観光ホテルへのアクセス

同ホテルのホームページをご参照ください。

<http://www.shiroyama-g.co.jp/access/>

### ■委員会等 鹿児島県医師会・城山観光ホテル

No	会議名	日時	会場
1	第49回学術総会（議事）	11月7日（金）13:00～13:20	県医師会館4階大ホール
2	編集委員会	11月6日（木）13:00～14:00	城山観光4階クイーン
3	保険情報委員会	11月7日（金）9:00～10:00	県医師会館2階会議室2
4	地方会等検討委員会	11月7日（金）13:00～14:00	県医師会館2階会議室1
5	安全対策委員会	11月7日（金）13:00～14:00	県医師会館2階会議室2
6	専門医認定委員会	11月8日（土）11:00～12:00	県医師会館2階会議室1
7	試験委員会	11月8日（土）12:00～13:00	県医師会館2階会議室1

### ■高気圧酸素治療安全協会 城山観光ホテル

No	会議名	日時	会場
1	理事会	11月6日（木）13:00～14:00	城山観光4階カトレア

### ■高気圧酸素治療技術部会 鹿児島県医師会

No	会議名	日時	会場
1	技術部会常任幹事会	11月7日（金）9:00～10:30	県医師会館2階会議室1
2	技術部会幹事会	11月7日（金）10:30～12:00	県医師会館2階会議室1

### ■専門医・技師認定試験 鹿児島県医師会

No	会議名	日時	会場
1	高気圧酸素治療専門医認定試験	11月9日（日）9:00～12:00 （受付開始8:30）	県医師会館 3階中ホール1
2	高気圧酸素治療技師認定試験		

## 関連行事のご案内

### 【評議員懇親会】

社員総会（評議員会）終了後、懇親会を開催いたしますので、皆様方の親交を深めていただきたく存じます。

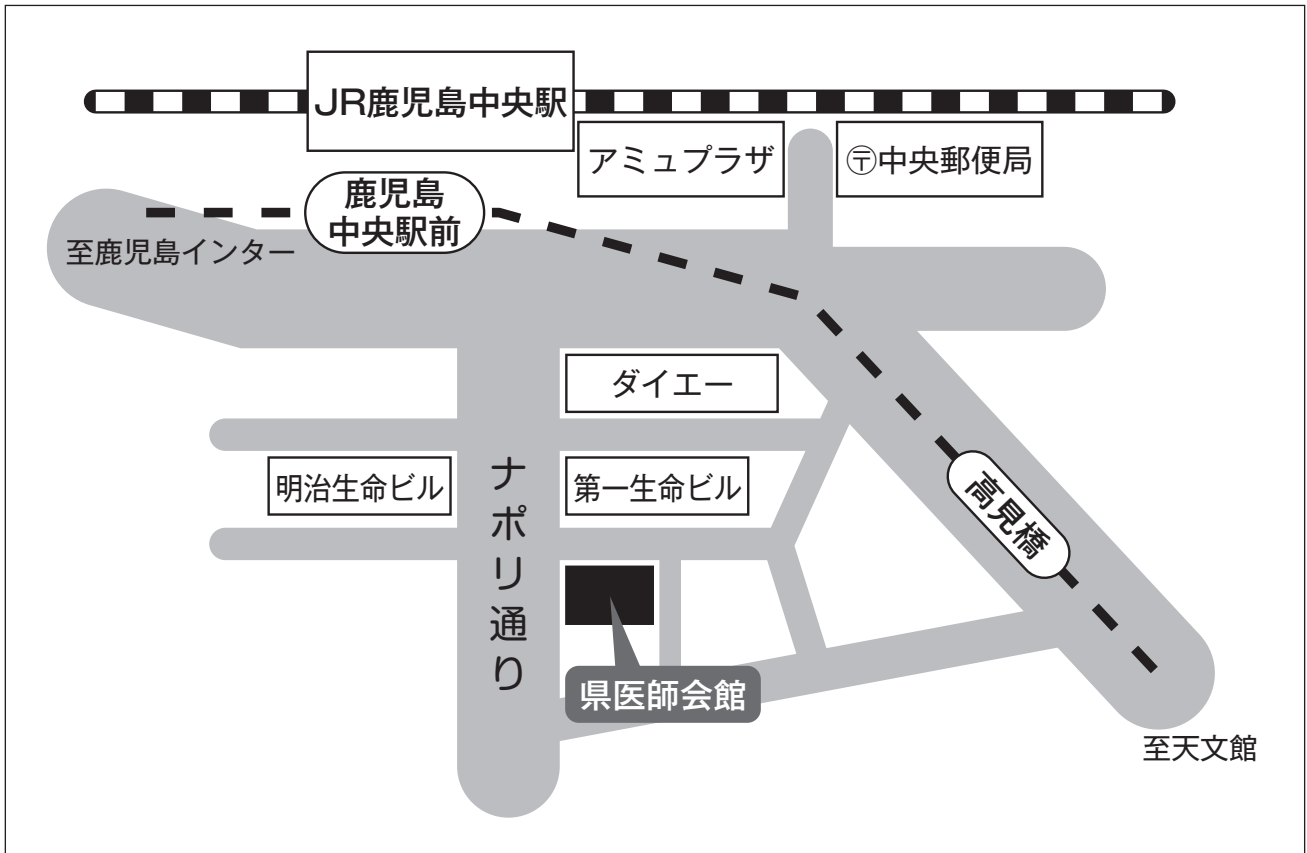
日 時	11月6日(木) 18:30～20:30(予定)
場 所	城山観光ホテル 4階レインボーホール
会 費	4,000円(社員総会受付にてお支払ください。)

### 【全員懇親会】

学術総会（1日目）終了後、全員懇親会を開催いたします。どなたでも参加いただけますので、皆様方の親交を深めていただきたく存じます。

日 時	11月7日(金) 18:30～20:00(予定)
場 所	鹿児島東急イン 2階ペガサス
会 費	3,000円(学術総会総合受付にて参加登録時にお申し込みください。)

## 会場までのアクセス



### 【会場へのアクセス】

鹿児島空港からバスで約 50 分（鹿児島中央駅前下車）

鴨池フェリーターミナルから車で約 20 分

JR 鹿児島中央駅から徒歩で約 5 分

※駐車スペースはございませんので、キャンセ駐車場や周辺のパーキングをご利用ください。

# 会場案内図

第49回 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会

会期：2014年11月7日(金)～8日(土)

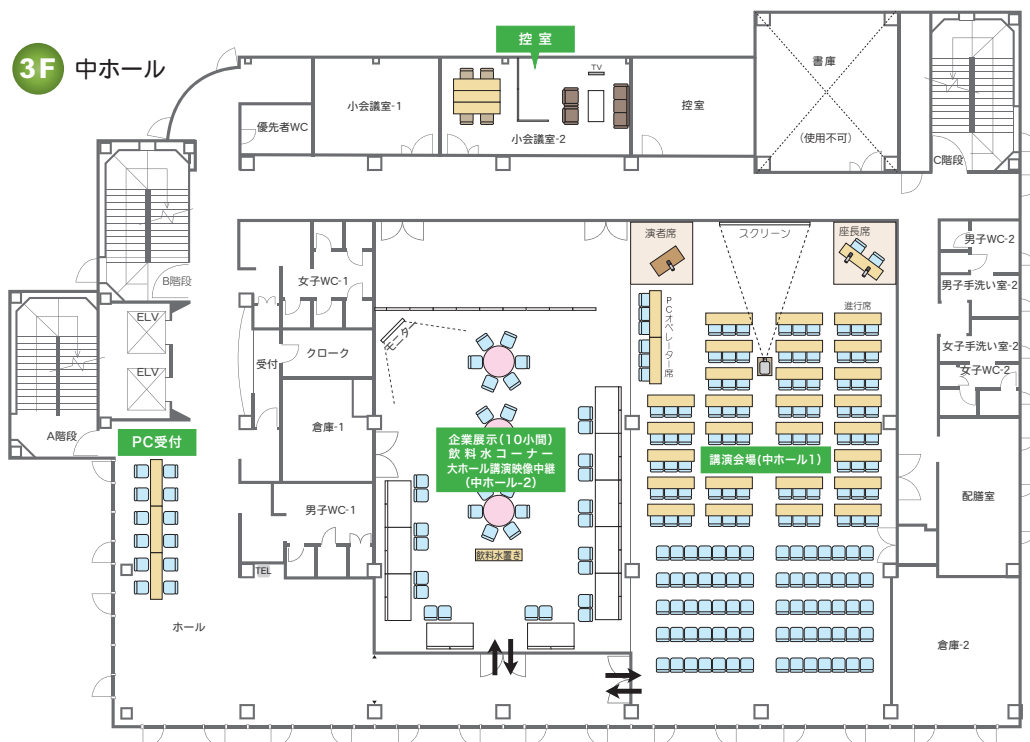
会場：鹿児島県医師会館



第49回 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会

会期：2014年11月7日(金)～8日(土)

会場：鹿児島県医師会館





## 参加者へのお知らせ

### 1. 参加資格

- ・本学会学術総会は、すべての参加者に開かれます。
- ・本学会に参加される方は、当日の総合受付で、参加登録を行ってください。
- ・シンポジウム、ワークショップ、一般演題における発表者は日本高気圧環境・潜水医学会会員に限りますので、未入会の方は入会手続きを行ってください。
- ・入会手続きは本学会事務局までお問い合わせ下さい。

一般社団法人 日本高気圧環境・潜水医学会 事務局

<http://www.jshm.net/>

TEL:03-5803-4884 FAX:03-3813-6292

E-Mail:jshm.hbo@tmd.ac.jp

### 2. 参加登録費

会員	10,000円
会員以外の医師・歯科医師	10,000円
会員以外の看護師・臨床工学技士	8,000円
一般参加者（潜水関係者を含む）	3,000円
研修医・学生（身分証明書提示）	無料

### 3. 全体懇親会

日 時：11月7日（金）18:30～20:00（予定）

場 所：鹿児島東急イン 2階 オリオン

会 費：3,000円（学術総会総合受付にて参加登録時にお申し込み下さい。）

### 4. 日本高気圧環境・潜水医学会 生涯教育単位について

- ・本学会では、日本高気圧環境・潜水医学会生涯教育単位（8単位）を取得できます。
- ・11月7日・8日の当日に日本高気圧環境・潜水医学会事務局にてお申し込みください。

### 5. 日本医師会生涯教育単位について

- ・本学会では、日本医師会生涯教育単位（最大1日5単位、計10単位）を取得できます。当日総合受付にて、お申し込みください。

# 発表者へのお知らせ

## 口演発表者の皆様へ

### 1. 口演時間

シンポジウム1・2	発表12分,質疑3分
ワークショップ1	発表12分,質疑3分
ワークショップ2	発表10分,質疑2分
一般演題	発表7分,質疑3分

口演時間厳守をお願いいたします。

### 2. 使用メディア等

- ・発表はPowerPointによるPCプレゼンテーションに限定します。用意しているOSはWindowsのみです。
- ・PowerPoint 2003以降に対応しています。
- ・USBメモリまたはCD-Rをお持ち下さい。
- ・使用するフォントはWindows標準フォントでお願いします。
- ・動画ファイルはWindows Media Playerで再生できるものでお願いします。
- ・動画や音声をご使用になる場合はデータ受付の際に必ずお知らせ下さい。
- ・動画データはPowerPointデータと同じフォルダに入れて下さい。万が一、会場のPCで動画が正常に作動しなかった場合を想定し、念のためご自身のPCをご持参下さい。
- ・Macintoshで作成されたデータについては、Windowsでの再生確認を必ず行って下さい。万が一、会場のPCで再生できなかった場合を想定し、念のためご自身のPCをご持参下さい。
- ・会場で接続できるケーブル端子の形状はD-sub15pin 3列タイプになります。

### 3. PC受付およびプロシーディング受付

- ・発表60分前までに（早朝の場合は30分前までに）、PC受付にお越し頂き、演題登録を済ませて下さい。この時、画面が確実に再生することをご確認下さい。
- ・演題登録時にプロシーディング原稿を収めたCD-R、およびプリントアウトした原稿を、原稿受付カウンター（PC受付）に必ず提出してください。

### 4. 画面操作

- ・発表の際は、演台に設置された操作用キーパッドまたはマウスを使って、演者ご自身で操作をお願いします。

## 5. 次演者

- ・前演者の口演開始とともに、次演者席にお着き下さい。

## 6. 打ち合わせ

- ・シンポジウムで発表される方は、事前の打ち合わせ会にご出席ください。

## 7. COI開示

- ・日本高気圧環境・潜水学会が主催する学術集会の演題発表に際して、発表者(演者)と共同研究者・共同発表者の利益相反を開示することになりました。詳細はホームページをご参照ください。

# プロシーディングの作成

昨年と同様、本年も学術総会後にプロシーディングを発刊致します。提出は、すべての演題が対象(一般演題, シンポジウム, ワークショップ, 招請講演, 教育講演, 特別講演, 理事長講演)となります。

## 1. プロシーディング原稿の作成要領

- ・プロシーディング原稿には規定のフォーマットはありません。
- ・プロシーディング原稿はMicrosoft Wordにて、1,600字以内で作成してください。図表、引用文献がある場合には、1,600字相当以内になるように本文の字数を調整してください。仕上がりは2段組1ページを予定しており、図表サイズが縮小されることをご留意ください。
- ・プロシーディングには、演題タイトル、発表者氏名(共同発表者を含む)・所属をお書きください。発表者氏名の頭に○をお付けください。
- ・図表、引用文献の記載方法は、学会誌(日本高気圧環境・潜水医学会雑誌)の投稿規定に準じてください。ただし、引用文献の著者は筆頭著者のみ記載してください。

## 2. プロシーディング原稿の提出

発表者は、発表当日、プロシーディング原稿を収めたCD-R、およびプリントアウトした原稿を、原稿受付カウンター(PC受付)に必ず提出してください。

プロシーディング原稿を提出されない場合には、プロシーディングに記載されません。

## 3. プロシーディング原稿の修正

プロシーディング原稿は、学術総会でのディスカッションなどの経緯を踏まえ、提出後の修正を希望する場合、1週間以内であれば修正が可能です。学術総会事務局に修正原稿を収めたCD-R、および、プリントアウトした原稿を1週間以内に送ってください。





















**S2-2 減圧障害の診断基準**

堂本 英治 (海上自衛隊潜水医学実験隊)

**S2-3 減圧症の鑑別疾患—II型神経学的減圧症の鑑別について**

別府 高明 (岩手医科大学 脳神経外科・高気圧環境医学)

**S2-4 減圧障害での重症度分類**

小島 泰史 (東京医科歯科大学医学部附属病院 高気圧治療部)

**S2-5 減圧症治療の現状と問題点**

土居 浩 (東京都保健医療公社 荏原病院 脳神経外科)

**S2-6 ドクヘリ基地 兼 第1種装置配備の当院における減圧症への基本戦略**

柳川 洋一 (順天堂大学医学部附属静岡病院 救急診療科)

■ワークショップ

**W1. 「高気圧酸素治療装置で使用可能な機器・機材」**

11月7日 (金) 15:30～17:30 4階大ホール

司会: 堂籠 博 宇都宮精治郎

**W1-1 高気圧酸素治療装置で使用可能な機器・機材**

第1種装置を中心として —2—

右田 平八 (九州保健福祉大学 保健科学部臨床工学科)

**W1-2 高気圧酸素治療装置内での機材使用に関する法的・行政的な側面**

鈴木 信哉 (自衛隊中央病院 臨床医学教育・研究部)

**W1-3 高気圧酸素治療室内への持込医療機器に関する全国アンケート調査～第2報～**

春田 良雄 (公立陶生病院)

**W1-4 高気圧酸素治療装置での人工呼吸器, 輸液ポンプ, シリンジポンプの使用について**

宇都宮 精治郎 (国家公務員共済組合連合会 新別府病院 臨床工学室)

**W1-5 第1種高気圧酸素治療装置における医療機器使用の現状**

灘吉 進也 (戸畑共立病院)

**W1-6 高気圧酸素治療 (HBOT) 装置で使用可能な機器・機材**

～ペースメーカー関連～

盛本 真司 (鹿児島市医師会病院 高気圧酸素治療室)

**W2. 「重症感染症と高気圧酸素療法」**

11月8日 (土) 9:00～10:30 4階大ホール

司会: 齋藤 繁 土居 浩

**W2-1 整形外科領域の感染症に対する高気圧酸素治療**

川崑 眞之 (社会医療法人玄真堂 川崑整形外科病院)

**W2-2 当ICUにおける軟部組織感染患者の治療**

日野原 宏 (群馬大学医学部附属病院 集中治療部)

**W2-3 軟部組織感染症と高気圧酸素治療—現状と課題**

山田 法頭 (岐阜大学医学部附属病院 高度救命救急センター)

**W2-4 東京医科歯科大学医学部附属病院での重症感染症に対する高気圧酸素治療症例の検討**

榎本 光裕 (東京医科歯科大学医学部附属病院 高気圧治療部)

**W2-5 重症神経感染疾患に対する高気圧酸素治療**

土居 浩 (東京都保健医療公社 荏原病院 脳神経外科)

**■ランチオンセミナー**

11月7日(金) 12:10～13:00 4階大ホール

**高気圧医学の実際**

合志 清隆 (琉球大学医学部附属病院 高気圧治療部)

座長:濱崎順一郎

**■一般演題(口演)**

1. 11月7日(金) 9:00～9:30 3階中ホール1

**脳神経**

座長:楠元和博

**1-1 遷延性意識障害を残さずに退院した重症CO中毒の1例**

黒岩 美夏 (特定医療法人八木厚生会 八木病院 看護部)

**1-2 浅側頭動脈を使用したバイパス術後創トラブルに対する高気圧酸素療法の効果**

和田 孝次郎 (防衛医科大学校 脳神経外科)

**1-3 高次脳機能評価で改善がみられた一酸化炭素中毒遅発性精神神経障害のHBOの1症例**

秋月 克彦 (医療法人藤井会 石切生喜病院 救急医療センター)

2. 11月7日(金) 9:30～10:10 3階中ホール1

**医療機器**

座長:中島正一

**2-1 当院における高気圧酸素治療装置冷却系トラブルの経験**

曾我 仁 (群馬大学医学部附属病院 MEサプライセンター)

**2-2 高気圧酸素治療中のシリンジポンプによる流量特性の検討**

荒井 慎吾 (東京医科歯科大学医学部附属病院 MEセンター)

**2-3 第2種高気圧酸素治療装置における高濃度酸素吸入を目指したデバイスの検討**

入船 竜史 (国立病院機構呉医療センター ME管理室)

**2-4 高気圧酸素治療下での人工呼吸器の使用特性についての検討**

濱洲 穂積 (鹿児島大学病院 臨床技術部臨床工学部門)

3. 11月7日(金) 10:10～10:40 3階中ホール1

感染症(泌尿器系)

座長:平原健司

- 3-1 薬剤性(シクロホスファミド)出血性膀胱炎に対して高気圧酸素療法が奏功した1例  
松田 健太郎(医療法人財団樹徳会 上ヶ原病院)
- 3-2 重篤な出血性放射線膀胱炎に対する高気圧治療—病因と対処法—  
中田 瑛浩(医療法人社団威風会 栗山中央病院 泌尿器科)
- 3-3 前立腺癌を原疾患とする放射線治療の晩期有害事象である膀胱炎への高気圧酸素治療の効果  
岡崎 史紘(東京医科歯科大学医学部附属病院 MEセンター)

4. 11月7日(金) 10:40～11:30 3階中ホール1

感染症(脊椎疾患)

座長:加藤 剛

- 4-1 高気圧酸素療法の併用により病巣の縮小を伴う臨床症状の改善を認めた頸椎硬膜外膿瘍の1例  
小阪 崇幸(国立病院機構 熊本医療センター 神経内科)
- 4-2 高気圧酸素治療を併用した化膿性脊椎炎に対する当院の治療戦略  
加藤 剛(東京医科歯科大学医学部附属病院 整形外科)
- 4-3 感染性脊椎疾患に対する高気圧酸素治療の小経験  
橋本 光宏(労働者健康福祉機構 千葉労災病院 整形外科)
- 4-4 当院における胸部ステントグラフト内挿術に併発した脊髄梗塞に対するHBO経験例  
奥田 紘子(医療法人藤井会 石切生喜病院 心臓血管外科)
- 4-5 いわゆる「鞭打ち症」に対する高気圧酸素療法(HBO)の治療経験  
井上 治(江洲整形外科クリニック)

5. 11月7日(金) 14:00～15:00 3階中ホール1

減圧症

座長:間中泰弘

- 5-1 減圧ストレスと疲労の関係  
望月 徹(埼玉医科大学地域医学医療センター)
- 5-2 門脈ガス血症を生じたⅡ型減圧症の一例  
近藤 夏樹(亀田総合病院 救命救急科)
- 5-3 第1種装置での減圧障害の治療を経験して  
間中 泰弘(医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 臨床工学科)
- 5-4 減圧症における現状と今後の展望  
赤嶺 史郎(特定医療法人沖縄徳洲会 南部徳洲会病院 臨床工学部)

## 5-5 減圧障害の治療 ～酸素再圧治療が最良か？

合志 清隆 (琉球大学病院 高気圧治療部)

## 5-6 減圧障害の疑いでドクターヘリ搬送された3例 ～神経学的所見の重要性

合志 清隆 (琉球大学病院 高気圧治療部)

## 6. 11月7日(金) 15:00～15:40 3階中ホール1

## スキューバ・ダイビング (I)

座長:久木田一朗

## 6-1 レジャーダイバーの減圧症発症誘因

ー1日3本以上の潜水と他要因との交互作用ー

鈴木 直子 (株式会社オルトメディコ)

## 6-2 スキューバダイビングの安全対策に関する潜水障害の発生頻度及び予防に関する調査研究 ー18年の調査結果からー

芝山 正治 (駒沢女子大学人間健康学部)

## 6-3 レジャーダイビング後に発症した内耳型減圧症の2例

三宅 裕 (海上自衛隊潜水医学実験隊)

## 6-4 南九州におけるスキューバダイバーの減圧症に対する認識調査

改元 敏行 (鹿児島市医師会病院 高気圧酸素治療室)

## 7. 11月7日(金) 15:40～16:30 3階中ホール1

## スキューバ・ダイビング (II)

座長:芝山正治

## 7-1 スキューバダイビング時の循環生理学的指標の変化 ー高齢女性の1例ー

佐々木 千穂 (熊本保健科学大学 リハビリテーション学科)

## 7-2 スキューバダイビング時の循環生理学的指標の変化

ー経験豊富な高齢男性2例での検討ー

伊佐地 隆 (帝京大学医学部 リハビリテーション科)

## 7-3 職業性素潜りダイバーの神経放射線学的検討

玉木 英樹 (玉木病院)

## 7-4 沖縄の潜水医療と酸素供給の問題点

ーDAN酸素プロバイダー講習が始まり16年を振り返って

村田 幸雄 (NPO沖縄県ダイビング安全対策協議会・琉球大学高気圧酸素治療部)

## 7-5 沖縄県のダイビングインストラクターの業務と減圧障害の実態調査

村田 幸雄 (NPO沖縄県ダイビング安全対策協議会・琉球大学高気圧酸素治療部)

8. 11月8日(土) 9:00～9:30 3階中ホール1

基礎研究

座長:伊古美文隆

- 8-1 深度443mswの水中における基礎的作業能力  
小沢 浩二(海上自衛隊潜水医学実験隊)
- 8-2 マウスにおける高圧曝露によるトランスサイレチンの発現  
伊古美 文隆(海上自衛隊潜水医学実験隊)
- 8-3 ラット後肢圧挫損傷後の腫脹に対する高気圧酸素の有効性  
小柳津 卓哉(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科整形外科学分野)

9. 11月8日(土) 9:30～10:10 3階中ホール1

臨床研究

座長:森本裕二

- 9-1 各種酸素マスクにおける経皮酸素分圧の測定  
高橋 亮子(労働者健康福祉機構 横浜労災病院 臨床工学部)
- 9-2 高気圧酸素治療における下肢の組織酸素化の測定について  
東 幸司(社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院 ME部)
- 9-3 HBO施行時におけるマスク酸素流量変化に伴う経皮酸素分圧動態  
宮本 聡子(東京医科歯科大学医学部附属病院 MEセンター)
- 9-4 高気圧酸素治療中の睡眠時無呼吸症候群疑いを発見しい得た症例  
～生体情報モニターBARAMOの有用性～  
長見 英治(労働者健康福祉機構 千葉労災病院 臨床工学部)

10. 11月8日(土) 10:10～10:50 3階中ホール1

消化器系

座長:島 弘志

- 10-1 高気圧酸素療法が有用であった腸管気腫症の2症例  
土井 智章(一宮市立市民病院 救命救急センター)
- 10-2 癒着性腸閉塞に対する高気圧酸素治療による腸管内ガス容積変化と治療効果の  
検討 –CT画像再構成による定量的評価–  
濱田 倫朗(社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院 臨床工学部門)
- 10-3 放射線腸炎に於ける高気圧酸素治療  
千葉 義夫(社会福祉法人仁生社 江戸川病院 ME室)
- 10-4 重症急性膵炎における高気圧酸素療法の意義  
上野 剛(鹿児島市医師会病院 麻酔科)

## 11. 11月8日(土) 10:50~11:30 3階中ホール1

## 感染症(重症症例)

座長:木下順弘

- 11-1 Fournier症候群に高圧酸素療法を併用した1例  
坊 英樹(日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)
- 11-2 糖尿病性足部病変に高気圧酸素治療を行った2症例  
牧野 仁美(国家公務員共済組合連合会 東海病院 整形外科)
- 11-3 会陰部の重症軟部組織感染症の治療例~院内連携の重要性  
松谷 眞由美(玉木病院 看護部)
- 11-4 コンパートメント症候群に対する当院での治療状況  
山口 喬(社会医療法人玄真堂 川瀧整形外科病院)

## 12. 11月8日(土) 14:00~14:40 3階中ホール1

## 感染症(骨疾患)

座長:田村裕昭

- 12-1 67Ga-citrate-SPECT-CT融合画像評価により骨髓炎に対する高気圧酸素治療の効果を証明できた一例  
桐木 園子(日本医科大学付属病院 循環器内科)
- 12-2 最近経験した骨髓炎難治例の検討と当院の取り組み  
田村 裕昭(社会医療法人玄真堂 川瀧整形外科病院)
- 12-3 当院の顎骨骨髓炎に対する高気圧酸素療法  
野堀 耕佑(公立陶生病院 臨床工学部)
- 12-4 胸骨正中切開後の縦隔洞炎に対する高気圧酸素治療経験  
安藤 敬(労働者健康福祉機構 横浜労災病院 臨床工学部)

## 13. 11月8日(土) 14:40~15:20 3階中ホール1

## 耳疾患・教育

座長:吉田泰行

- 13-1 潜水中の耳症状と潜水後の鼓膜所見について  
吉田 泰行(医療法人社団威風会 栗山中央病院 耳鼻咽喉科・健康管理課)
- 13-2 高気圧酸素治療における加圧速度の検討  
尾崎 修一(鹿児島市医師会病院 高気圧酸素治療室)
- 13-3 沖縄県における減圧症患者治療後の指導についての現実  
清水 徹郎(特定医療法人沖縄徳洲会 南部徳洲会病院 高気圧酸素治療部)
- 13-4 高気圧酸素治療の学生実習指導経験  
廣谷 暢子(労働者健康福祉機構 横浜労災病院 臨床工学部)

14. 11月8日(土) 15:20～16:00 3階中ホール1

統計・治療効果

座長:宮庄浩司

14-1 救命救急センターにおける第一種高気圧装置導入10年目の現状と課題

宮庄 浩司(福山市民病院 救命救急センター)

14-2 当院における高気圧酸素治療の現状と課題

加藤 恭浩(社会医療法人厚生会 木沢記念病院 臨床工学課)

14-3 当院における高気圧酸素治療の現状

新家 和樹(刈谷豊田総合病院 臨床工学科)

14-4 第1種装置で治療された患者の合併疾患調査

工藤 美雪(社会福祉法人恩賜財団済生会 山形済生病院 ME機器管理室)